

フレンズのつどい Part. 31

7月27日 文化の家 森のホール

歌って踊る **HAND SIGN** 公演

目で聴くミュージック

舞台と客席 ひとつになって盛り上がる



フレンズのつどい part. 31「歌って踊る HAND SIGN」目で聴くミュージック」が7月27日文化の家森のホールで行われました。

第1部はHAND SIGNがニューヨークのアポシターで優勝したときの様子がスクリーンで紹介されたのち、いよいよダンスが始まりました。

黒い服に赤い靴でさっそうと登場し「カルメン」などの激しい曲のメドレーではヘッドスピン（頭を軸に倒立の状態で踊る）でぐるぐる回転したり、ロボットダンスをするなど、難しい技に目を奪われ、観客から盛んな拍手が起りました。

手話で観客と心がつながる

第2部は青いシャツに白いジャケットのさわやかな服装で登場。彼らは「七夕祭り」で有名な神奈川県平塚市出身で、その故郷

HAND SIGNメンバーの明るく軽快なリードで舞台と客席が一体になって大きく盛り上がった

のために「星物語」という曲を作りました。
（楽曲提供は「湘南の風」）
早いテンポのその曲で歌に合わせて体を動かし、おみこしをかつぐしぐさなどの忙しい振り付けを観客全員で練習し会場は盛り上がりました。

次に、2013年ブルガリアのソフィアで行われたデフリンピック（聴覚障がい者のオリンピック）の日本選手団の公認応援ソング「ドリームステージ」を高らかに歌い踊りました。

最後をしめくくる曲は、ソフトバンクのWebのCMで流れている「友達」。「離れても絆は変わらず」と静かに歌い踊って舞台を去りました。

このあと楽しいアンコールがあり、それは公演の前に講習会が2回行われた曲「ダンス&スマイル」。客席には手話を教え、講習会出席の人たちは舞台上がり、手話ブラダンスで参加。世界共通の「アイラブユー」の手話をみんな高く掲げフィニッシュを決め、舞台と客席がひとつになったところで公演を終えました。

HAND SIGNの夢

現在、地元神奈川県の中学校、高校50校を目標に公演をくり広げ、手話の素晴らしさやダンスの楽しさを伝えていきます。また50校にとどまらず、全国の学校を回ることに彼らの夢です。

そして2012年にはカンボジアでパフォーマンスとダンスレッスンを通して支援活動を行った経験もあり、世界中に手話ダンスを広めたいと夢は大きくふくらんでいます。

★ 関連記事が2面に続きます